

峠 山 遺 跡

筑紫野市大字針摺字峠山所在遺跡群

序

この報告書は、本年度、福岡県教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査のうち、重要と思われるものの一つである。わが国の歴史研究の一資料として、ご活用いただければ幸甚である。

なお、調査は別府大学考古学研究室にお願いしたが、同大学賀川光夫教授ならびに橘昌信講師に種々多くのご迷惑をおかけした。そのご協力に対し心からお礼申し上げます。

昭和48年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 森 田 実

例 言

1. 本書は、福井一祐氏の畑地造成を原因として、事前に発掘調査した埋蔵文化財調査の報告書である。

なお、調査にあたっては国庫補助を受け、別府大学に調査を依頼し、当教育委員会が主催した。

2. 本書においては、旧石器時代の遺跡調査を主として報告するが、弥生・古墳時代の遺跡等については別途報告書を刊行する予定である。
3. 本書に掲載した実測図の作成・製図及び写真は、全て別府大学考古学研究室によるもので、本文の執筆については、本文目次に明記した。
4. なお、当遺跡名は、当初は「大塚山遺跡」と呼称していたが、小字名をとって「峠山遺跡」と改称した。

本 文 目 次

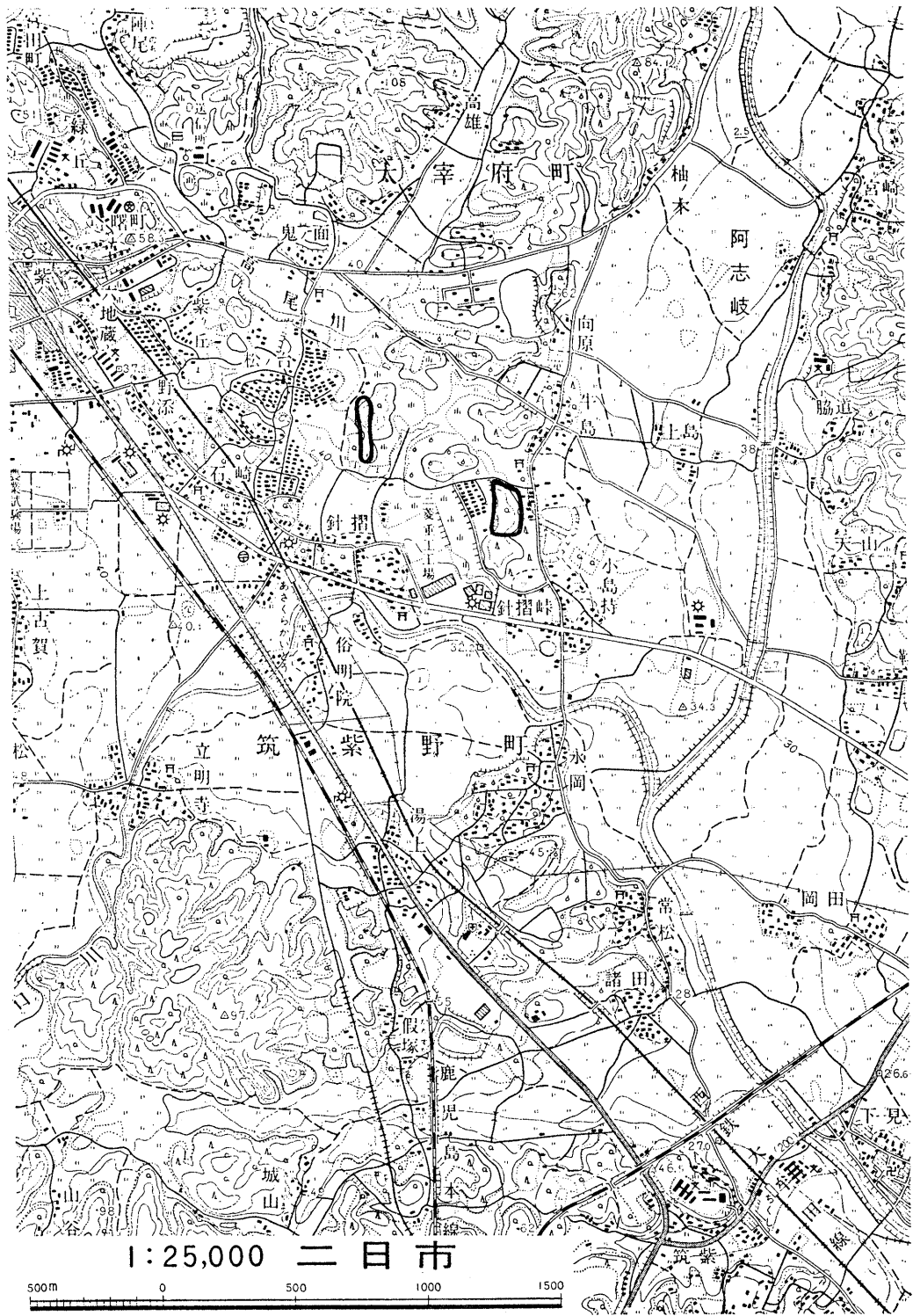
	頁
I 調査の経過 …………… (牧尾義則) ……	6
II 遺 跡	
1. 立 地 …………… (上村佳典) ……	8
2. 土 層 …………… (上村佳典) ……	8
3. 調査区概要 …………… (上村佳典) ……	8
III 遺 物 …………… (橋昌信) ……	11
IV 結 語 …………… (橋昌信) ……	21

図 版 目 次

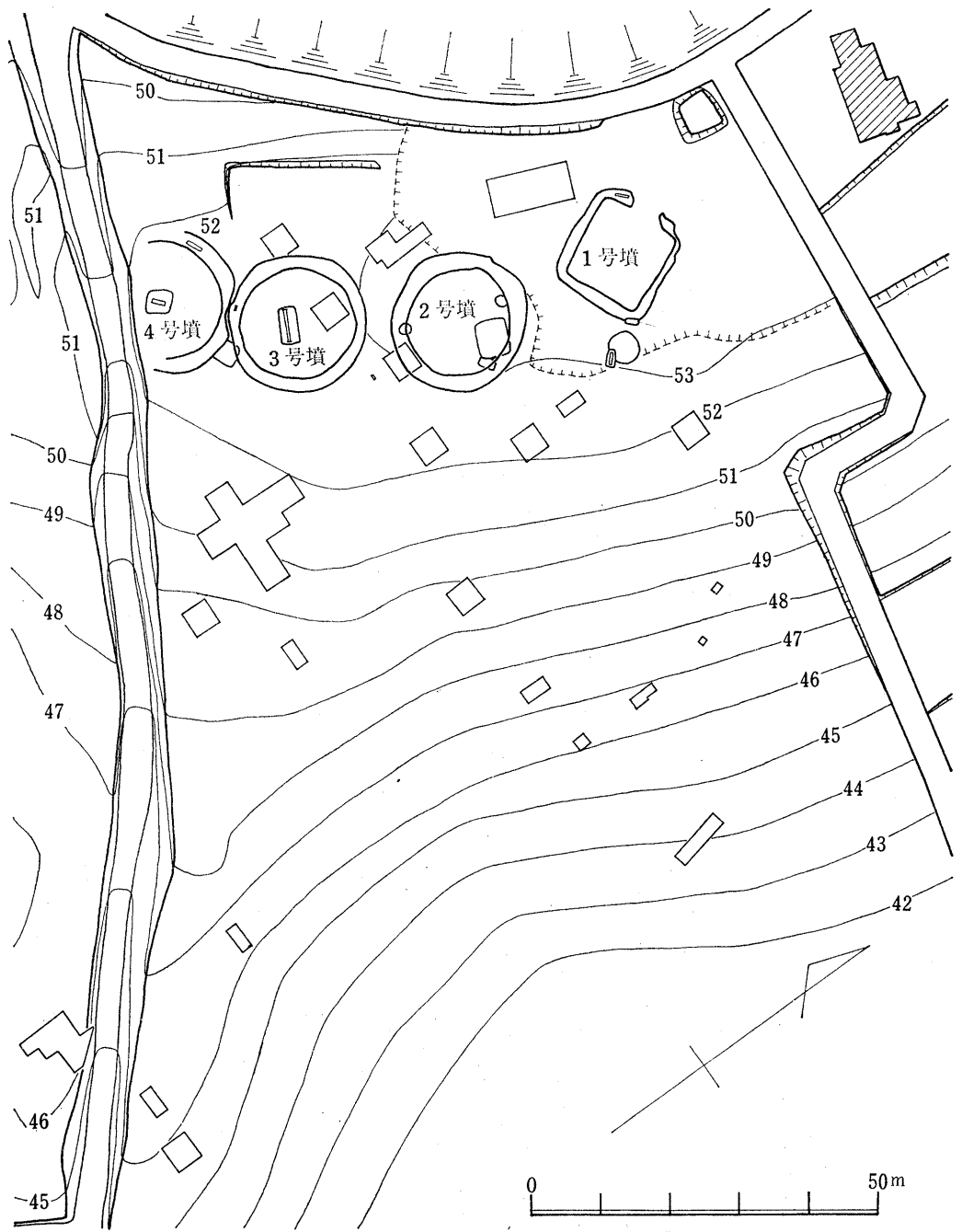
	本文対照頁
P L 1 遺 跡 全 景	8
2 (1) 調査区近景(南東から)	8
(2) 調査区近景(北西から)	8
3 土 層 断 面	8
4 遺 物 出 土 状 態	8
5 A地点石器(ナイフ形石器, 他)	11
6 A地点石器(細石刃)	11
7 A地点石器(石核, 細石核)	11
8 B地点石器(台形様石器, 他)	17
9 B地点石器(細石核, 他)	17
10 C地点石器(ナイフ形石器, 他)	18
11 D地点石器(二次加工の石器, 他)	18
12 表採石器(尖頭器, 台形様石器, 他)	17

挿 図 目 次

	頁
第1図 遺跡位置図	4
第2図 地形実測図	5
第3図 調査地区模式図	9
第4図 土層断面図(T-9西側壁)	10
第5図 土層断面図(O-24西側壁)	10
第6図 A地点の石器および石核実測図	12
第7図 B地点の石器および石核実測図	15
第8図 C地点および周辺・表採の石器実測図	16
第9図 A地点の石器および石核実測図	15
第10図 細石刃実測図	16



第1図 遺跡位置図 (右：峠山遺跡・左：野黒坂遺跡)



第 2 图 地形实测图

I 調査経過

峠山遺跡の発掘調査は、昭和47年10月23日から11月19日にわたって行なわれた。以下、調査経過の概要を振り返ってみる。

10月23日（月） 発掘関係者は午後、宿舎である大西富衛門氏方に集合。福岡県教育委員会の前川氏の指導のもとに、私物整理、昼食、現地見学を行なう。

10月24日（火） 本日より作業開始する。これまでの表採資料の地点等を考慮し、台地中央部に基点を置き、南北を中心軸とする4×4mのトレンチを設定。

10月25日（水） 東西トレンチの設定。南北軸は北から算用数字、東西軸には西からローマ字で4m毎に区割り、その合点をグリット名とする。T-9、Q-14、O-18の発掘作業が並行される。

10月26日（木） 小雨のため、午後になって作業を中止する。

10月27日（金） 台地中央部のⅢ層上面にピット多数確認されるが、後世のものと考えられる。遺物が出土しはじめる。

10月28日（土） 各区、Ⅳ層上面から黒耀石製の剝片数点が出土。

10月29日（日） O-27、Ⅳ層上面より黒耀石製のエンドスクレイパー、使用痕のある剝片等が出土。

10月31日（火） 台地北側のブルドーザで削平された地点に同発掘調査と並行されている古墳発掘調査の都合上、急掘3×4mのトレンチを設定。北から北西トレンチⅠ～Ⅷと命名する。Ⅴより三陵 Point の先端部が出土。台地南側、台地東端で台地最低部の掘り下げも同時に行なわれる。

11月1日（水） 台地南側、N-24、O-24の拡張作業を行なう。台地東端Ⅲ層下面よりナイフ形石器が出土。H. I-14・15では遺構を確認。地形測量が開始される。

11月2日（木） 台地東側傾斜部のトレンチ設定。N-24を中心とする地区、およびブルドーザ削平の北西トレンチで多数の遺物が確認され、拡張の必要がある。

11月3日（金） 雨のため作業中止。遺物洗いと実測を行なう。

11月4日（土） ブル削平部の拡張を行なう。台地南側では遺物が確認されるが、東側傾斜部では台形様石器1点のみで、a-16・17・18・19では全面発掘を見合わせ、一部のみとする。

11月5日（日） N-24の拡張作業を行う。

11月6日（月） 雨のため作業中止。

11月7日（火） 各地点の掘り下げと、発掘終了区の土層図取りを行なう。

11月8日（水） 台地南側が中心となる発掘作業と、終了区の土層図取り、および地形測量が

行なわれる。

11月9日(木) L・N-24から細石刃, ナイフ形石器等が出土。午後3時頃雨のため, 作業中止。

11月10日(金) 雨のため作業中止。

11月11日(土) M-24で黒曜石製, サヌカイト製のナイフ形石器2点, 細石刃多数が出土する。

11月12日(日) L-24から細石核が出土。M-24の北側4×6mのトレンチ拡張作業と, T-9の層位確認のための掘り下げを行なう。

11月13日(月) 昨日の拡張部の掘り下げと, 台地東南端に設けられたX-29, b-39, d-39の発掘作業が進められる。T-9については約2.7m掘り下げ, 写真撮影を行なう。

11月14日(火) 台地中央部の土層図取りが行なわれる。

11月15日(水) d-39からは二次加工石器, 弥生式土器数点が出土。M-24, N-24からはサヌカイト製の石核, サヌカイト製横剥ぎナイフ形石器が出土する。他では土層図取り, 平板測量も行なわれる。午後4時頃, 雨のため作業を中止する。

11月16日(木) 午前中, 残りの部分の掘り下げ, 土層図取り, ブルドーザによる台地中央部の表土剥ぎが行なわれる。午後からは雨のために作業を中止。

11月17日(金) M-23, N-23からはサヌカイト製のスクレイパー, 細石刃等が出土。d-39からは剥片, 彫器が出土。

11月18日(土) 本日で一応作業は終了。残りの調査については, 県が中心となって進められる予定。器材撤収等を行なう。

11月19日(日) 宿舎掃除, 私物整理等を行ない, 午後解散する。

II 遺 跡

1. 立 地

福岡平野と筑紫平野の接点にあたるところに、宝満山からほぼ南側にのびた微高地が展開している。それらの微高地のうちでもっとも南側に位置するのが、この峠山遺跡である。本遺跡は、標高約50mで南北100m、東西100mの広さをもつ。また西北に野黒坂遺跡で知られる野黒坂台地があり、南は山口川・水田を隔てて、永岡遺跡・常松遺跡で知られる、永岡・常松の両台地に面し、東は、牛島の水田を眼下に見て、宝満川につづいている。

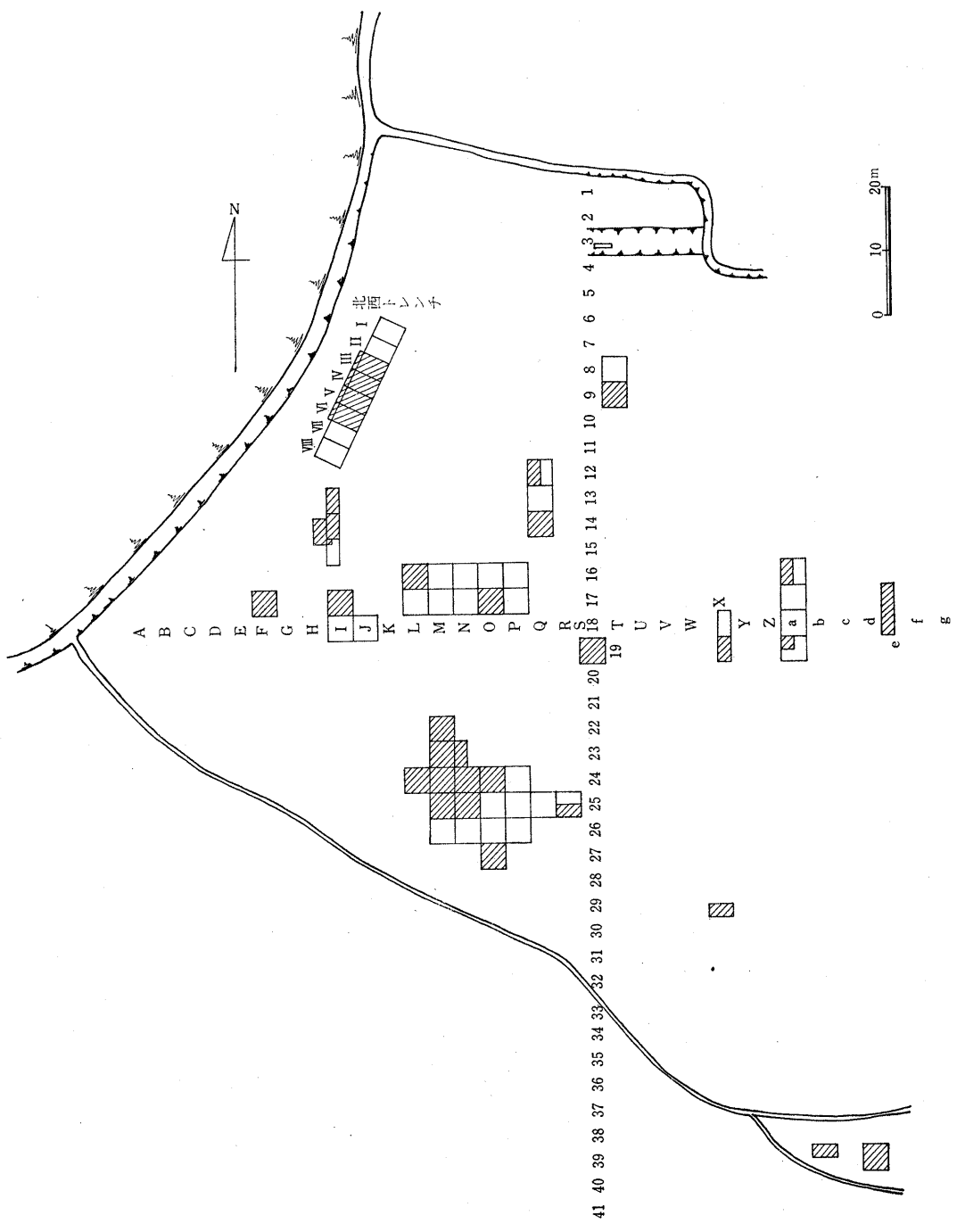
2. 土 層 (第4・5図)

I層(耕作土)…約20cmの厚さをもつ。II層(黒色砂質土層)…20~25cmの厚さをもち、阿蘇山の火山灰層と思われる。III層(暗褐色粘質土層)…約20cmの厚さをもち、石器の出土は、この層10cmほどからである。IV層(明褐色粘質土層)…20~30cmの厚さをもち、石器の出土は、この層10~15cmまでである。V層(黄褐色砂質土層)…50~70cmの厚さをもち、層中に黄色の粒子を多量に含んでいる。VI層(赤褐色砂質土層)…約30cmの厚さをもち、層中に赤色の粒子を多量に含みマンガンの帯が部分的に入っている。VII層(烏栖ローム)…25~55cmの厚さをもち、VI層より赤色度および砂質度が強く、層中にマンガン粒子を多量に含んでいる。VIII層(白色粘質土層)…10~15cmの厚さをもち、通称八女ネンド層に相当する層と思われる。IX層(白桃色粘質土層)…15~20cmの厚さをもち、肌色に近いわずかな桃色がかった色調をする。X層(礫層)…10~20cmの幅をもって、石英質の礫が層をなしている。XI層(桃色粘質土層)…35cm以上の厚さをもち、極めて粘質土の強い層である。この遺跡での主要包含層はIII層下面からIV層上面にかけての20~25cmの間であり、V層からVII層にかけての砂質土層は、下層に行くにつれて、水分を多量に含むと同時にマンガンの含入が顕著になる。

またVIII層からXI層にかけての粘質土層は、下層に行くにつれて、赤味を増すと同時に粘質度も強固になっていく。

3. 調査区の概要 (第3図)

調査区が広く時間的に全面を剥いで調査する事が不可能なため、台地の中央部に南北に基準線を設け、4m方眼のグリットをあげ遺跡の様相が分かる個所を選択し、発掘を実施した。グリットをあげたどの個所からも石器類ないし剥片が数量の差こそあれ出土した。遺物の主要な包含層は、表土下20~25cmのIII層下面から35~40cmのIV層上面までの約20cmの厚さで、細石



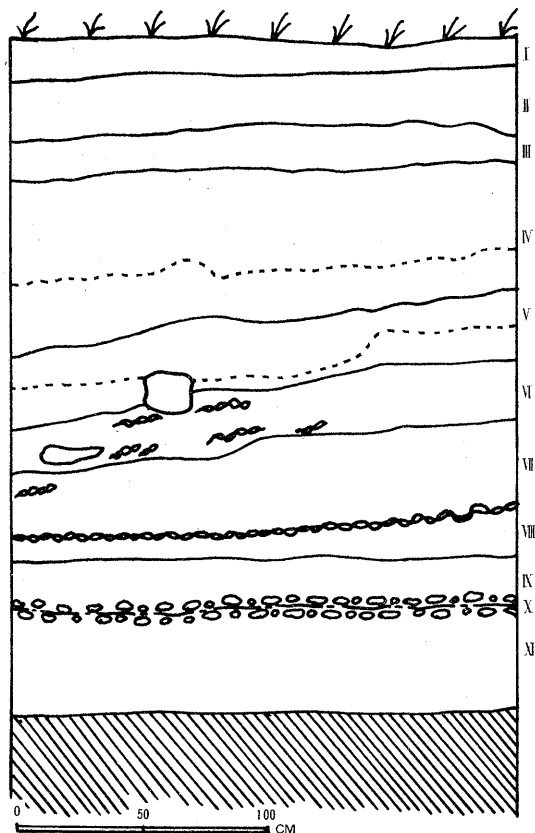
第 3 図 調査地区模式図

刃，細石核，ナイフ形石器，台形様石器などが共伴して出土した。遺物の平面的な広がりおよび層位的な出土状況により二つのグループが考えられ，さらにその中間地区，および周辺地区出土の遺物を加えて計四地点に区別してまとめることにした。

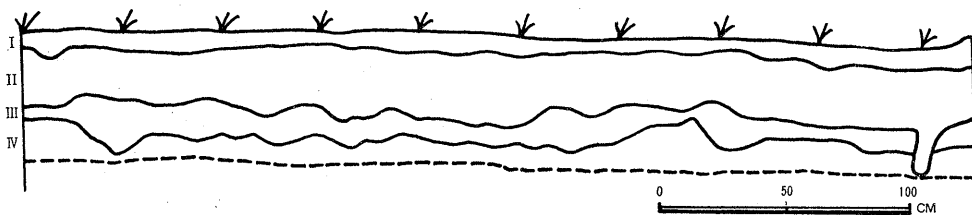
A地点はほぼ南北にのびる尾根から東南方向に緩やかな傾斜をしめしている標高51m前後の地点で24-M，Nグリッドを中心に直径7m程の範囲において良好な遺物の出土状況を検出し得た。すなわち細石刃，細石核を主体にナイフ形石器，剝片尖頭器，搔器などの石器が，Ⅲ層からⅣ層上面にかけて出土している。

C地点はA地点から北に60m程離れた尾根中央部の平坦な個所で標高は54mを数える。この地点は調査に先だって土地造成工事関係者によってブルドーザーが入っており，Ⅳ層上面近くまで削平されていた。この個所に4×3mを1グリッドとする調査区を設けて実施した（北西トレンチⅠ～Ⅷ）。石器の数はA地点に比較して少ないが，Ⅳ層においてナイフ形石器が出土し，他に細石刃，尖頭器，搔器類がわずかに伴っている。遺物の拡がりは6×7mの範囲に集中するという傾向が窺える。A地点より層位的に深い位置に遺物包含層が存在することになり，A地点に多少なりとも先行する文化層と見なすことができよう。

C地点東側の台地中央部には古墳，および弥生時代の遺構が存在することもあって，集中的



第4図 土層断面図 (T-9西側壁)



第5図 土層断面図 (O-24西側壁)

な調査を実施し得なかったが、古墳の盛土や墳丘の断面調査、遺構の検出の過程でⅢ層およびⅣ層と考えられる地層から台形様石器、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃、細石核などが出土している。ほぼ南北にのびる台地中央部のかなり広い地域より出土した遺物を**B地点**として一括したが、種々の状況を考慮すると、大部分の石器類はC地点に抱括して考えられる。

以上の3地点以外の台地の東側斜面のグリッドからも石器や剥片類が出土している。記述上の便宜さから一括して**D地点**とした。A、C地点のようにある限られた範囲にまとまった遺物を確認することができなかったが、台地全体が当時の生活の場所として利用されていた事を知る上ではそなれりの意義があるものとする。

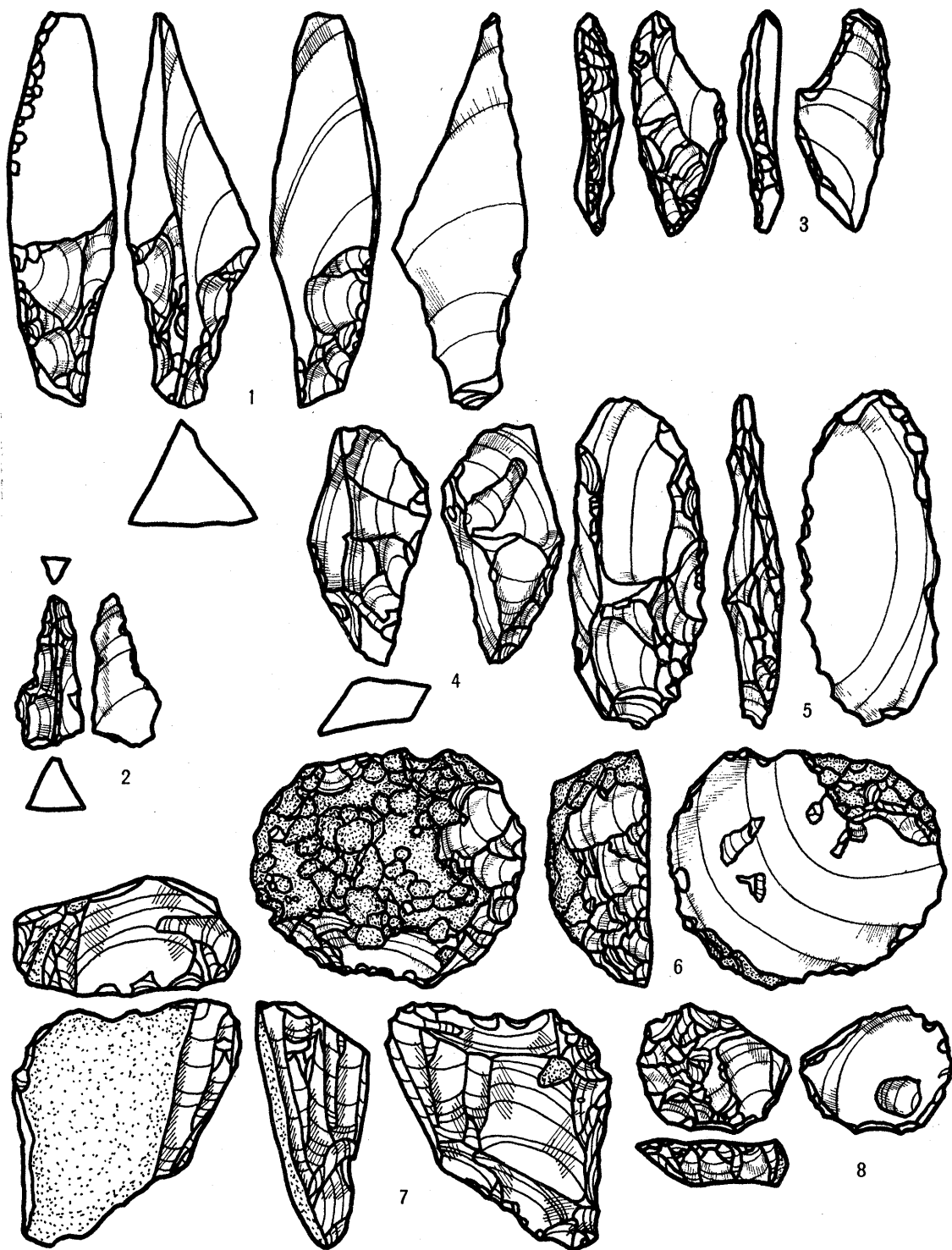
次に各地点出土の主要な遺物について実測図に従って述べることにする。出土地区や、層位、石質、大きさについては表1、2を参照されたい。

Ⅲ 遺 物

A地点出土遺物（第6図1～8，第9図27～29，第10図30～56）

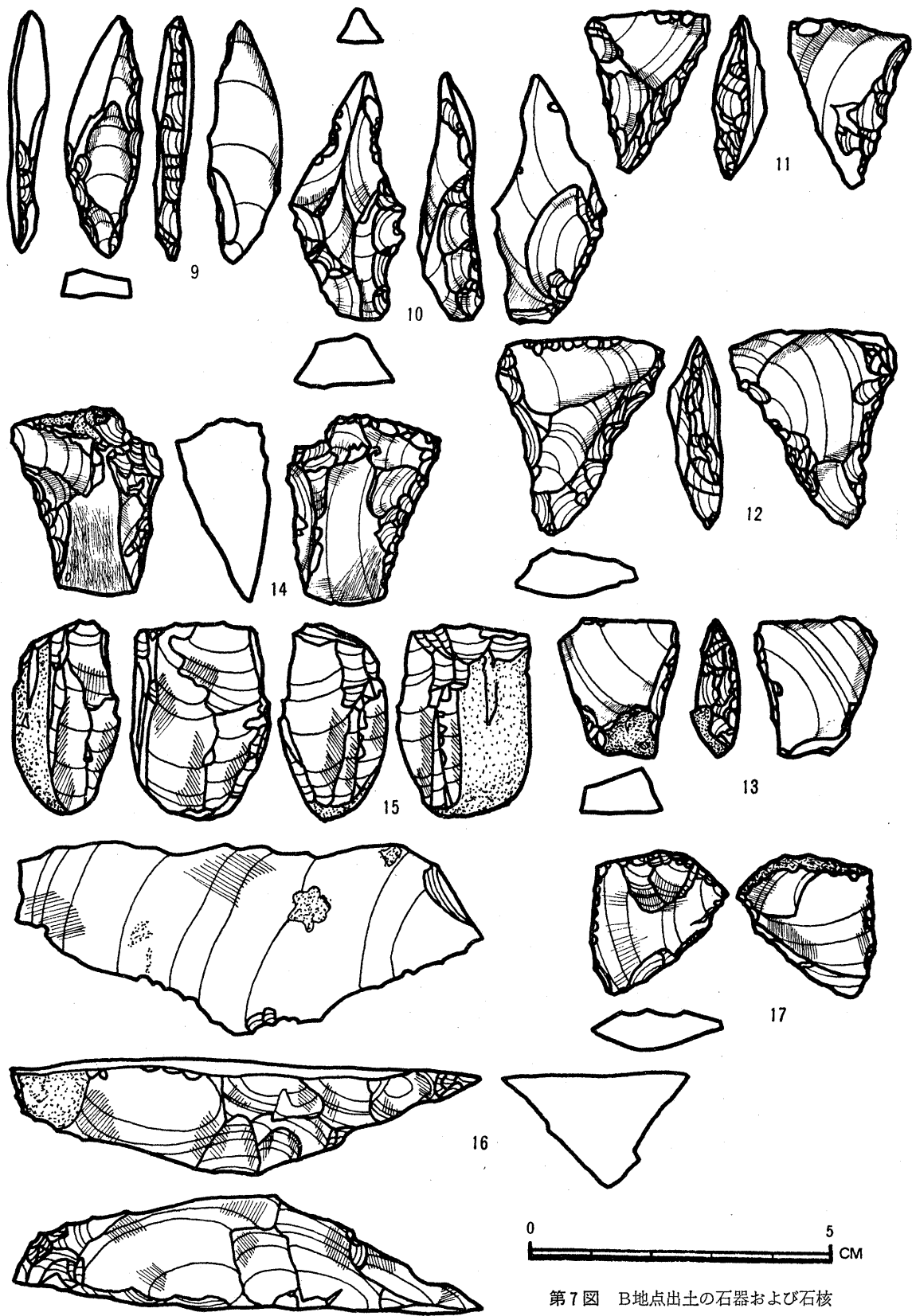
尖頭器（第6図1，2） 1はサヌカイトの縦長剥片を素材に打面側の両側辺に主要剥離面から二次加工を施し、この石器の基部を形成している。側辺および先端は剥離のもつ鋭いエッジをそのまま利用している。左右がシンメトリーでないことを考慮すると基部調整のナイフ形石器とも考えられるが、素材に三角形をした剥片を選び、中央に稜が走り、さらに断面が厚いことからここでは剥片尖頭器とした。2は半分以上を欠損しているが同じく尖頭器と考えた。二次加工の剥離は主要剥離面からおこなわれており中央に稜が形成され、横断面はほぼ正三角形を呈する。主要剥離面には全く加工が施されてなく、縦長の厚味のある剥片を素材にしていることが判る。

ナイフ形石器（第6図3～5） 3～5はいずれもナイフ形石器であるが、素材、加工技術、形態等に違いが見いだせる。3は黒耀石の縦剥ぎに近い剥片を素材とし、一側辺と基部とに直角なブランディングが丹念に施されている。背部と基部の加工の他に、主要剥離面の刃部近くは縁辺に沿った小さな剥離がおこなわれている。先端は幾分丸味をおび刃部は内湾している。4は横剥ぎに近い不定形なサヌカイトの剥片の一側辺に主要剥離面とは逆の面よりブランディングを施している。粗雑な作りであるが一方の側辺の二次加工と横剥ぎ剥片の鋭い先端部からナイフ形石器と認定した。5はサヌカイトの横剥ぎの素材を用いたナイフ形石器で、ブランディングの加工は主要剥離面の方向から横剥ぎ剥片の打面の部位に施されている。横剥ぎの剥片を用いた典型的なナイフ形石器で瀬戸内周辺より出土しているナイフ形石器と技術的にも形態的にも極めて類似しており興味深い。



第6図 A地点の石器および石核

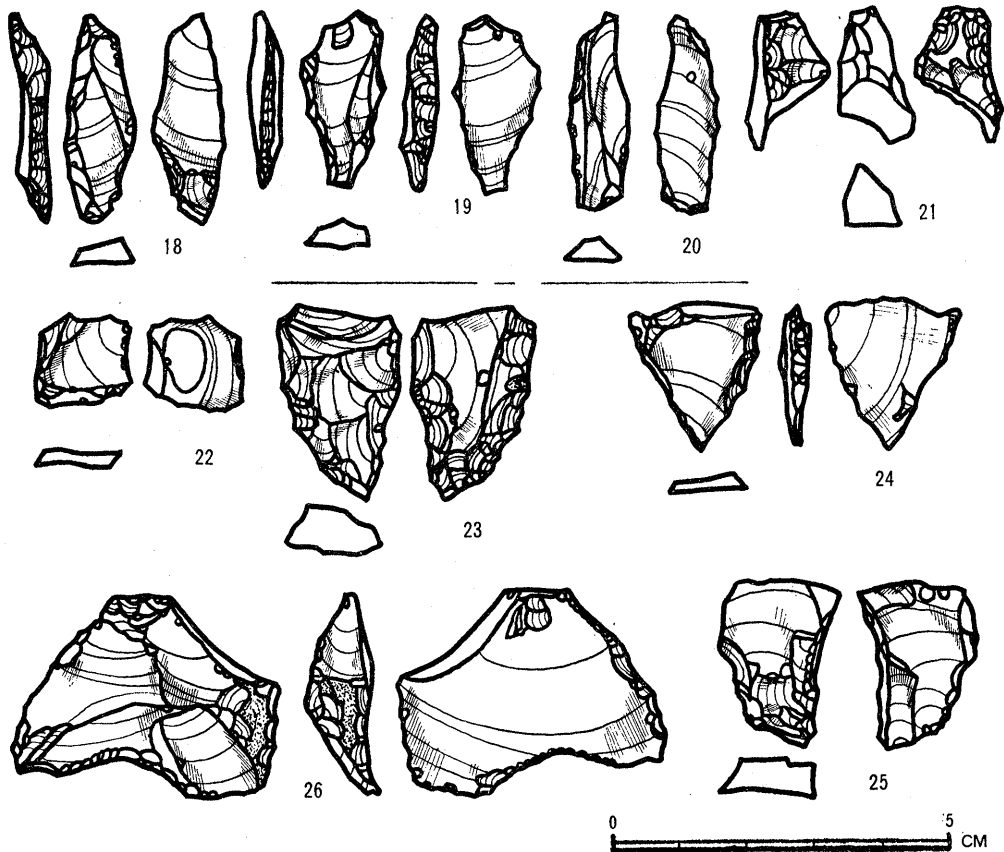




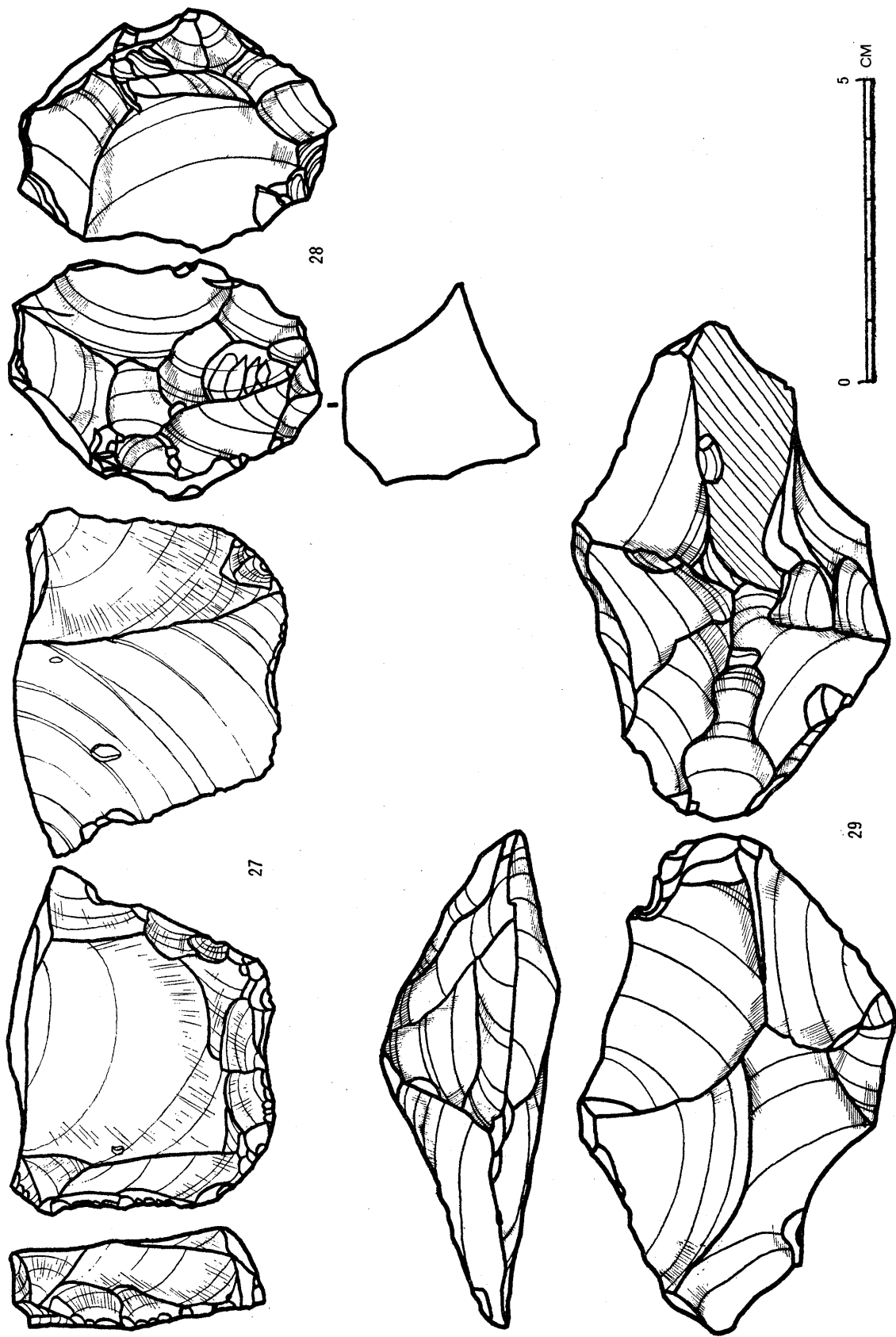
第7図 B地点出土の石器および石核

スクレイパー（第6図6） 6は黒耀石の円礫を大きく打ち剥がした最初の厚味のある剥片を素材にしたエンドスクレイパーである。全体の形はほぼ円形を呈し、その周辺の3分の1に主要剥離面側からの入念な二次加工が行なわれ、縦断面が幾分湾曲気味の刃部が形成されている。

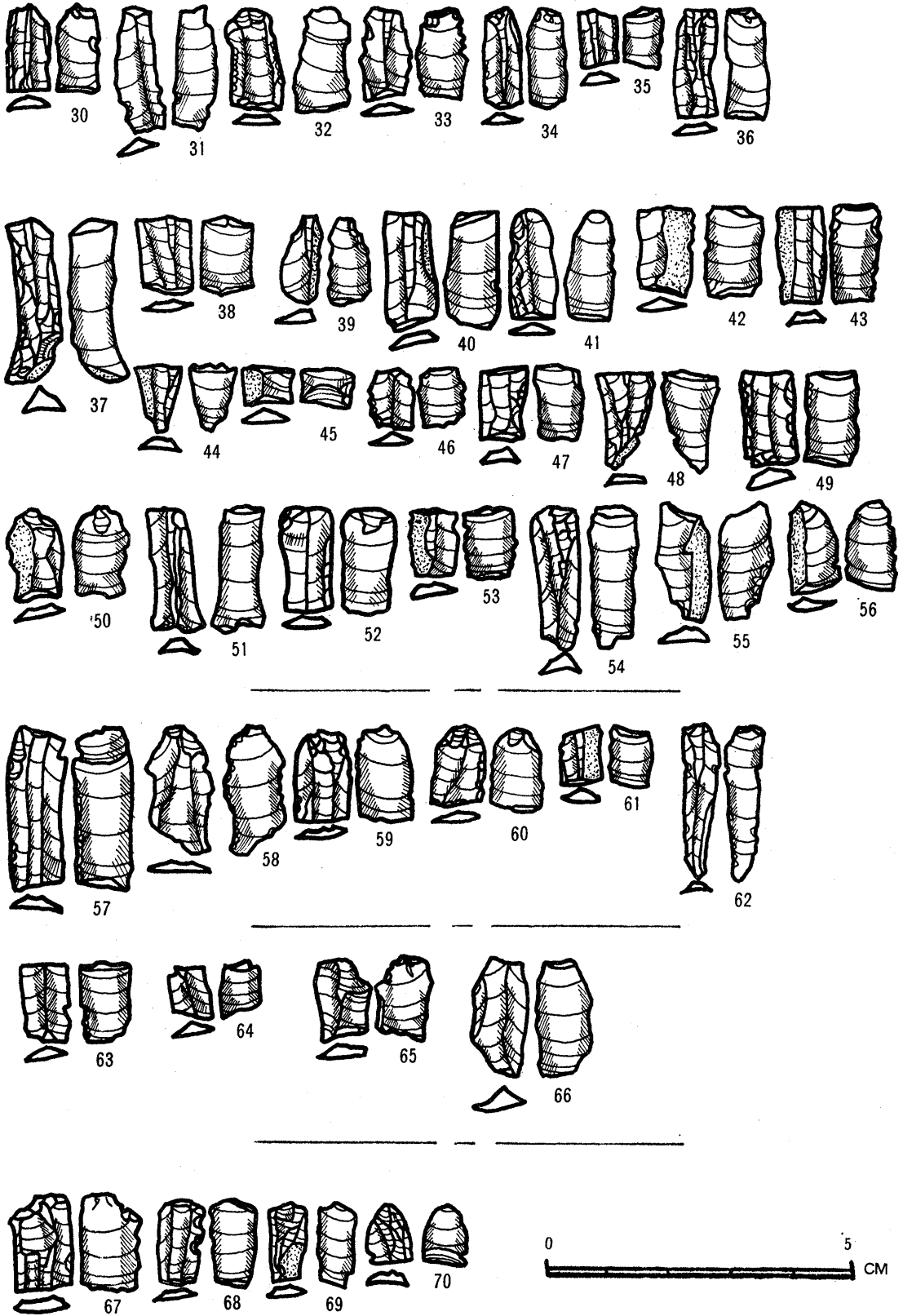
細石核（第6図7，8） 7は黒耀石製の細石核である。黒耀石の角礫から剥離されたであろう厚味のある剥片を素材に選んでいると考えられ、周囲の三側辺を自然面から剥離を施こして細石核の母型を整形している。この周辺に見られる剥離は打面側およびその逆の一端では大きな斜向した剥離面によって作られているのに対し、一側辺は小さな剥離面が丹念に施され、スクレイパーの刃部を彷彿させる。残された一側面に細石刃剥離面が見られる。打面の有効加撃面には打面調整のため小さな剥離が施されている。8は一側辺に細石刃剥離面の打面近くが残されており、細石核再生剥片と考えられる資料である。細石核の打面を形成していたと推測できる一面は周囲からの打面調整の剥離が施されている。打面再生剥片の観察からは半円錐形細石核の存在が予想される。



第8図 C地点および周辺出土・表採の石器



第 9 図 A 地点の石器および石核



第10圖 細石刃 (30~56A地点・57~62B地点・63~66C地点・67~70周辺出土)

スクレイパー（第9図27） サヌカイトの厚味のある大形剥片の周囲に沿って二次加工を施した方形のスクレイパーである。下端の一辺は加工が顕著で鋭い刃部を形成している。

石核（第9図28, 29） 28はサヌカイト製の石核で両面ともに周辺から剥離面が残されている。あまり大きくない横剥ぎの剥片が取られている。29も同じくサヌカイト製の石核であり、剥離面と打面との関係が一定してなく、全面から横長の剥片を取っている。

細石刃（第10図30～56） A地点において35点の細石刃がⅢ層からⅣ層上面にかけて上記の石器類と共に出土しているがその主要なものを図示した。石質は全て黒曜石製で他の石を用いたものは1点も存在していない。比較的大形でその幅6～9mmを測る。細石核から剥離されたままの打面と先端が残されたものは皆無に近く、大多数の細石刃は打面あるいは先端の一方ないし両端が欠損している。このことは細石刃のエッジに小さな刃こぼれが認められることとも関連して、打面および打痕痕が残される細石刃の厚味のある個所、さらに断面および平面形が湾曲しがちな先端部を意識的に折り取った為と考えられる。

B地点出土遺物（第7図9～16, 第10図57～62）

ナイフ形石器（第7図9） B地点出土のナイフ形石器はこの9のみである。サヌカイトの縦長剥片を素材に一侧刃と基部にブランディングを施している。先端および基部ともに尖っており、二次加工のブランディングによって素材の剥片が切截されていると思われる。

尖頭器（第7図10） 黒曜石の不定形の厚味のある剥片を素材に主要剥離面からの大きな剥離によって基部を整えている。三角形をした先端部はこの剥片が石核から剥離される以前の大きな剥離面から成っており、当初より先端の尖った剥片を撰択していることが窺がえる。

台形様石器（第7図11～12） 11は比較的横に長いと考えられる剥片の打面側およびその反対の一辺に加工を施して全体の形を三角形に整えている。二次加工の剥離は打面側に顕著に見られるがこれは打面の厚味を減ずるためと考えられる。12は大形の台形様石器で両側刃の表裏に二次加工が施され11と同様基部の尖る三角形を呈している。表面および裏面に見られる剥片の稜線から考えると不定形な横長の剥片が素材に用いられているようである。刃部と想定される一辺には刃こぼれと思われる小さな剥離面が並んでいる。13は上記の二点と異なり台形状を呈し、打面側の一方のみ主要剥離面からの垂直に近い二次加工が施されている。逆の一方は下端の1/3程に剥離が加えられており、それ以外は折り取られたと考えられる面がそのまま残されている。この打面と逆の一端に加えられた小さな剥離は剥片を折り取りやすくするためのノッチ状の二次加工の一部と推察される。

擦痕のある石器（第7図14） 器種名について適当なものがないので、刃部と考えられる一端の両面に縦方向を主とする顕著な擦痕が観察されるので擦痕のある石器とした。縦断面が楔状をした黒曜石の剥片を素材に、三辺に両面から丹念な二次加工を施して台形状に整えている。断面が鋭いV字形を呈する刃部と考えられる一辺には全く加工が行なわれていず、片方の面に特に著しい擦痕が見られスリガラスのような面をなしている。この用途としては「のみ」

あるいは「彫器」が想定される。

細石核（第7図15,16） 15は黒耀石製の円礫から剥離した厚味のある剥片が素材となっていると思われる。打面は片方の面からの斜めの小さな剥離によって作り出されている。細石刃剥離面は小口にあたる両側面にみられる。16については細石核にするのには問題が残されるが、他に適当な項目が見当たらないので一応この中に入れることにした。黒耀石の厚味のある縦長剥片の両側面に主要剥離面より剥離が施され横断面が三角形を呈する。舟底形をした細石核の母型あるいは剥片尖頭器の未製品とも考えられるが明確に判断できない。

二次加工の剥片（第7図17） 三角形をした黒耀石の剥片の打面側に二次加工を施しており残された二辺の鋭いエッジには刃こぼれと思われる小さな剥離面が観察される。

細石刃（第10図57～62） B地点の細石刃はA地点に比較して、8点と量的に少ないが大きさでは上まわり、側辺に沿って小さな細調整剥離や使用痕が認められる。

C地点出土遺物（第8図18～21，第10図63～66）

ナイフ形石器（第8図18～20） 18は形の整った小形の黒耀石製のナイフ形石器である。縦長剥片の一側辺と逆の側辺基部に丹念なブランティングが施され、先端、基部とも尖っている。基部の主要剥離面側にも加工がおこなわれている。19も同じく黒耀石の縦長剥片を素材に両側辺の大部分にブランティングが施され斜めの短い刃部は剥片の鋭いエッジが利用されている。形態的には切出し形石器と呼称されるものに類似している。20はサヌカイトの縦長剥片を用い、一側辺の基部と先端部近くのみ簡単なブランティングが施されている。

尖頭器（第8図21） 黒耀石製の尖頭器と考えられる石器で、先端部と基部側の大部分を欠損しているため全体の形については知り得ない。横断面は五角形をなし、その五つの面に二次加工の小さな剥離が施されている。

細石刃（第10図63～66） 5点の細石刃が出土しており、他地点出土の細石刃と同様、やや幅が広く先端部ないし基部を欠いている。上記したナイフ形石器と全く同じ層より出土している。

D地点出土遺物（第8図22～26，第10図67～70）

台形様石器（22～25） 22は台形様石器と考えられる石器であり、その製作手法はかなり特殊なものと思われる。すなわち黒耀石製の縦長剥片を用い、台形様石器の一側辺は剥片の平打打面をそのまま利用し、逆の一側辺のみ主要剥離面からの直角に近い二次加工を施して整えている。23の台形様石器はほぼ三角形を呈し、両側辺に加工が集中しておりその二次加工の剥離面は大きいので両面の中央近くまでおよんでいる。刃部は素材となった剥片の鋭いエッジにおき、やや傾斜している。24は正三角形を呈する形の整った台形様石器で両側辺の加工は一部のみおこない折取っている。すなわち一側辺は刃部より、もう一側は基部側にそれぞれノッチ状の剥離を加えた後、剥片の両端を折取り形を整えていると考えられ、台形様石器製作の一つの方法を推測させる。素材となった黒耀石の剥片は横に長いものと思われる。25は黒耀石の剥

片の両側面に二次加工を施し他の一辺を刃部とした石器なので一応台形様石器として分類した。しかしながら一般に台形様石器とされているものとは素材の用い方が異っている。

二次加工の剥片（第8図26） 黒耀石の比較的大形の横長剥片の二辺に二次加工を施している。特に打面と逆の一辺は抉入しており、主要剥離面側には使用痕が観察される。抉入した刃部と考えられる個所は、縦断面で明らかのように湾曲しているので Concave-scraper としての用途が考えられるであろう。

細石刃（第10図67～70） 非常に断片的であるが、周辺のグリッドおよび表採品の中に黒耀石製の細石刃が認められる。形態的には他地点と同様の特長が窺える。

表 1 石器および石核一覧

№	地区名	層	器種	石質	長×幅(mm)	地点
1	N-24	Ⅲ層下面	尖頭器	サヌカイト	61.5 × 20.5	A
2	N-22	Ⅲ層	"	黒耀石	23.5 × 10.5	"
3	N-24	Ⅲ層下面	ナイフ形石器	"	35.0 × 14.5	"
4	"	Ⅳ層上面	"	サヌカイト	36.5 × 18.0	"
5	M-24	Ⅲ層下面	"	"	41.5 × 22.0	"
6	O-27	Ⅳ層	スクレイパー	黒耀石	37.0 × 43.5	"
7	N-24	Ⅲ層	細石核	"	35.5 × 35.5	"
8	O-24	Ⅲ層下面	細石核再生剥片	"	19.5 × 24.0	"
9	1号墳		ナイフ形石器	サヌカイト	40.0 × 13.0	B
10	2号墳		尖頭器	黒耀石	40.5 × 19.0	"
11	1号墳	赤土内(Ⅲ層)	台形様石器	"	27.0 × 20.5	"
12	2号墳	盛土	"	"	32.0 × 28.0	"
13	J-13	墳丘	"	"	22.5 × 20.5	"
14	1号墳	溝	擦痕のある石器	"	30.5 × 23.5	"
15	3号墳	トレンチ	細石核	"	32.5 × 23.0	"
16	4号墳	トレンチ	石核(?)	"	31.0 × 78.5	"
17	J-18	Ⅳ層上面	二次加工石器	"	22.0 × 22.0	"
18	C-Ⅳ	Ⅳ層上面	ナイフ形石器	"	30.5 × 11.0	C
19	C-Ⅴ	Ⅲ層下部	"	"	26.0 × 12.5	"
20	C-Ⅴ	Ⅳ層下部	"	サヌカイト	28.5 × 9.5	"
21	C-Ⅴ	Ⅳ層	尖頭器	黒耀石	20.0 × 11.5	"
22	X-18	Ⅳ層上面	台形様石器	"	14.5 × 15.0	D
23	表採		"	"	26.5 × 17.0	B
24	"		"	"	20.5 × 20.0	"
25	"		二次加工剥片	"	29.5 × 39.0	D
26	"		台形様石器	"	25.0 × 18.0	"
27	M-23	Ⅳ層	スクレイパー	サヌカイト	44.0 × 57.5	A
28	N-23	Ⅲ層上面	石核	"	51.5 × 39.5	"
29	M-23	Ⅳ層上面	"	"	50.0 × 83.0	"

表 2

細 石 刃 一 覧

№	地区名	層	器種名	石質	長×幅(mm)	地点
30	N - 23	Ⅲ層	細石刃	黒耀石	14.0 × 7.0	A
31	"	"	"	"	20.0 × 7.5	"
32	M - 24	Ⅲ層下面	"	"	16.5 × 9.0	"
33	"	"	"	"	16.0 × 8.5	"
34	L - 24	"	"	"	16.0 × 6.0	"
35	O - 24	"	"	"	10.0 × 6.5	"
36	M - 25	"	"	"	17.0 × 6.5	"
37	N - 24	Ⅳ層上面	"	"	26.0 × 7.0	"
38	L - 24	"	"	"	12.5 × 8.0	"
39	M - 25	"	"	"	14.2 × 6.0	"
40	N - 24	"	"	"	19.0 × 8.5	"
41	N - 21	"	"	"	18.0 × 8.0	"
42	N - 24	"	"	"	14.5 × 9.0	"
43	N - 22	"	"	"	15.5 × 8.2	"
44	O - 24	Ⅳ層下面	"	"	11.0 × 7.5	"
45	N - 23	Ⅳ層上面	"	"	6.9 × 8.0	"
46	O - 24	Ⅳ層	"	"	10.0 × 8.0	"
47	N - 23	"	"	"	12.0 × 8.0	"
48	O - 24	Ⅳ層上面	"	"	16.0 × 9.5	"
49	N - 24	"	"	"	15.0 × 8.5	"
50	"	Ⅳ層	"	"	15.0 × 9.0	"
51	N - 23	"	"	"	20.0 × 8.5	"
52	S - 24	"	"	"	17.0 × 9.0	"
53	N - 23	"	"	"	11.0 × 8.0	"
54	N - 24	"	"	"	23.0 × 8.0	"
55	N - 23	"	"	"	17.0 × 9.0	"
56	M - 23	"	"	"	15.0 × 8.0	"
57	4号墳	トレンチ	"	"	26.5 × 9.5	B
58	3号墳	"	"	"	21.0 × 10.5	"
59	2号墳	あげ土	"	"	14.5 × 9.0	"
60	O - 17	Ⅳ層	"	"	13.0 × 9.0	"
61	3号墳	トレンチ	"	"	9.9 × 6.9	"
62	"	"	"	"	25.0 × 6.0	"
63	C - Ⅲ	Ⅳ層	"	"	13.5 × 8.0	C
64	C - Ⅳ	"	"	"	9.0 × 6.5	"
65	C - Ⅴ	"	"	"	13.0 × 9.0	"
66	"	"	"	"	18.5 × 9.0	"
67	表探	"	"	"	16.0 × 9.0	"
68	"	"	"	"	14.0 × 7.0	"
69	"	"	"	"	13.0 × 6.0	D
70	N - 24	Ⅳ層上面	"	"	10.0 × 7.0	A

表 3 石 器 類 一 覧

器 種	A			C			D			B	表採	計
	I II	III	IV	I II	III	IV	I II	III	IV			
細 石 刃		12	23	1		4			8	8	2	58
細 石 核		2							1	1		4
ナイフ形石器		2	1		1	2				1		6
台形様石器									1	3	2	6
尖頭器		2				1				1		4
搔器		1	3			1		1		1	5	12
彫器						1		1		1	1	4
二次加工石器	1	1	2	1		23		4	6	5	23	66
石核		2	1							1		4
使用痕のある剥片			2			5		3	2	3	2	17
剥片		3	8			52	2	2	41	16	37	161
計	1	25	40	2	1	89	2	11	59	41	72	342

IV 結 語

最後に当遺跡出土の石器について概観し、さらにA・C地点の遺物および出土状況から比較を行なってまとめとした。

① 峠山遺跡は、後期旧石時代の終末近くに位置づけられ、基本的な石器の組成として細石刃・細石核・ナイフ形石器・台形石器・尖頭器等が存在し、それらが共伴している。

② 細石核については資料不足の感をまぬかれないが、いわゆる半円錐形石核と細石核のいわゆる小口にあたる短側面に細石刃剥離面を有し、舟底形石核に比較的類似したものが認められる。

③ 細石刃の大多数は基部あるいは先端が意識的に折り取られており、その多くに刃こぼれなどの使用痕が観察される。

④ ナイフ形石器は、縦長剥片を素材に一側辺の全てと基部の一部にブランチングが施された先端部、基部ともに尖る形の整った小形のもが存在すると同時に、サヌカイトの横剥ぎ剥片を素材にした瀬戸内地方のそれに関連が求められると考えられるものが見られる。

⑤ 台形様石器は、両側面に丹念な二次加工が施こされ基部の尖る形態をとっている。この台形石器の中には剥片の一部にノッチ状の加工を加えてその後折り取ると推察されるものが含まれ、台形様石器の一つの製作手法が考えられる。

⑥ 尖頭器は剥片を素材に用いた断面三角形のいわゆる剥片尖頭器ないし三稜ポイントと呼称

されるものに相当する。

⑦石器の素材は黒曜石が大半を占め、残りはサヌカイトおよび安山岩である。

⑧A地点は細石刃、細石核を主体にナイフ形石器、尖頭器を共伴する時期の所産と考えられる。

⑨C地点はB地点の状況を加味して考えるとナイフ形石器、台形様石器を主体にする時期で、それに細石刃・細石核がわずかに伴っている。

⑩A地点とC地点は石器の基本的な組成は共通しており、極めて接近した時期が考えられるが量的な違いが認められ、若干の時間的な先後関係が予測される。

⑪両地点の遺物の出土状況の層位的観察によると、A地点はⅢ層からⅣ層上面に包含層の主体が考えられるのに対し、C地点のそれはⅣ層上部に求めることができる。

⑫A地点は石器の量に比較して剝片・碎片などが極端に少なく、C地点のあり方と異っている。

⑬以上のA地点とC地点の対比から、両地点は共に細石器文化の一つの時期に位置づけられ、極めて近接したかなり限られた期間が考えられるが、C地点はA地点に若干先行する時期に生活が営まれたものと思われる。

【あ と が き】

今回の峠山遺跡は、福岡県教育委員会の依頼を受けて、別府大学考古学研究室が発掘調査を実施した。調査を行なうにあたって県教育委員会文化課の宮小路賀宏、前川威洋の両氏には種々の面で大変お世話になった。記して感謝の意を表したい。

発掘調査参加者

賀川光夫 橋 昌信 上村佳典

牧尾義則・倉原謙治・坂本嘉弘・松田ミユキ・松井孝之・和田利徳・平ノ内幸治・森永弘太・三浦聖弥・永松みゆき・梅山朋子・志津友子・鹿児島愛里・阿部洋造・原田保則・飯田直子・松本ひとみ・安部保代・瓜生田文子・東由美子

遺物整理および報告書作成は、上記の上村・牧尾・坂本・和田・平ノ内・永松・梅山・志津・飯田・松本・安部君等の積極的な協力によってなし得ることができた。上村、牧尾の両君には執筆の一部を担当してもらった。心からお礼を申し上げたい。

版 圖

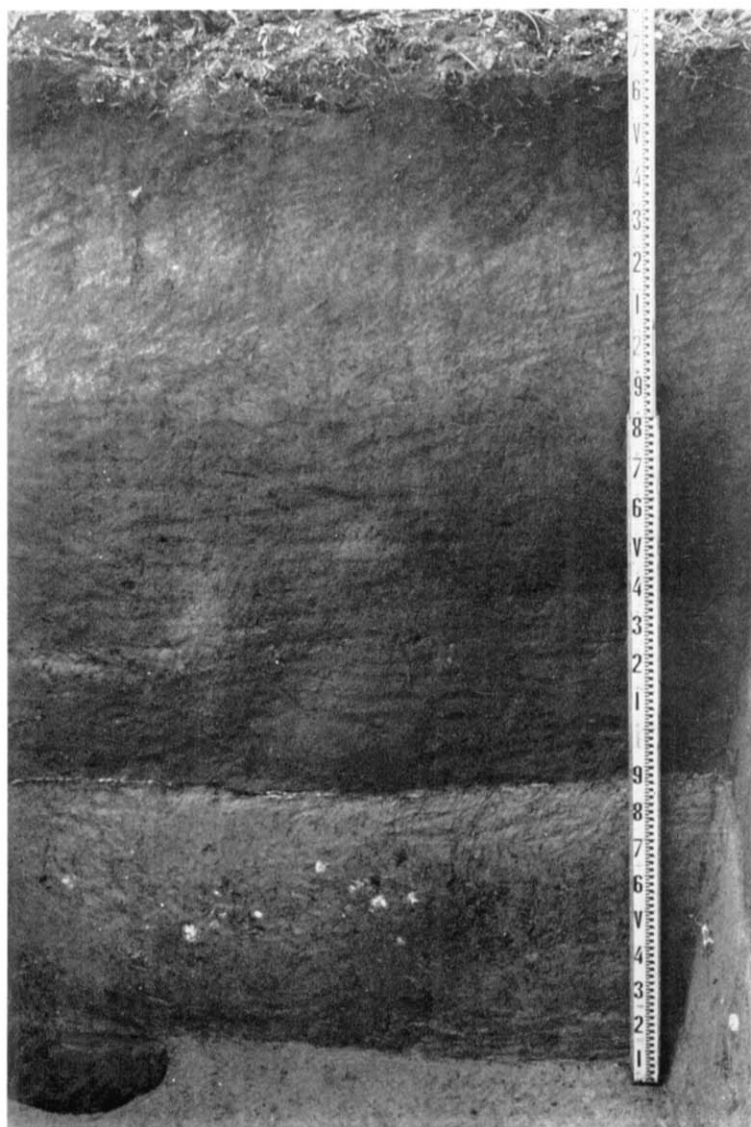




1. 調査区近景 (南東から)

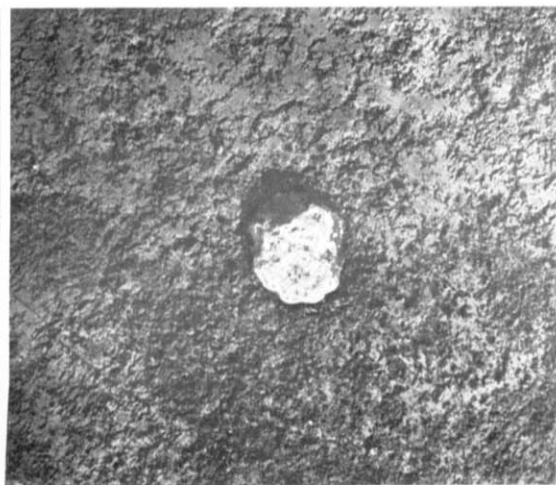
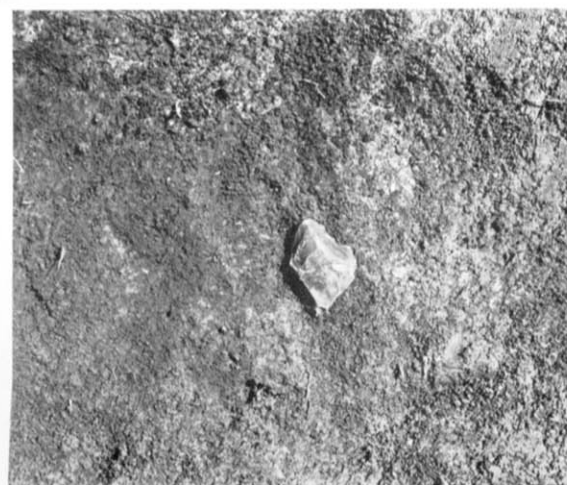
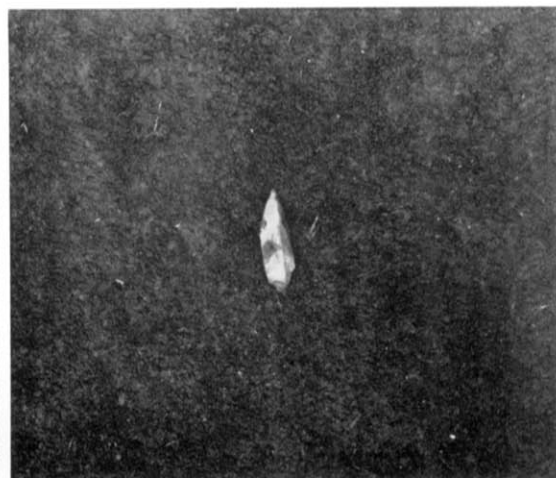


2. 調査区近景 (北西から)

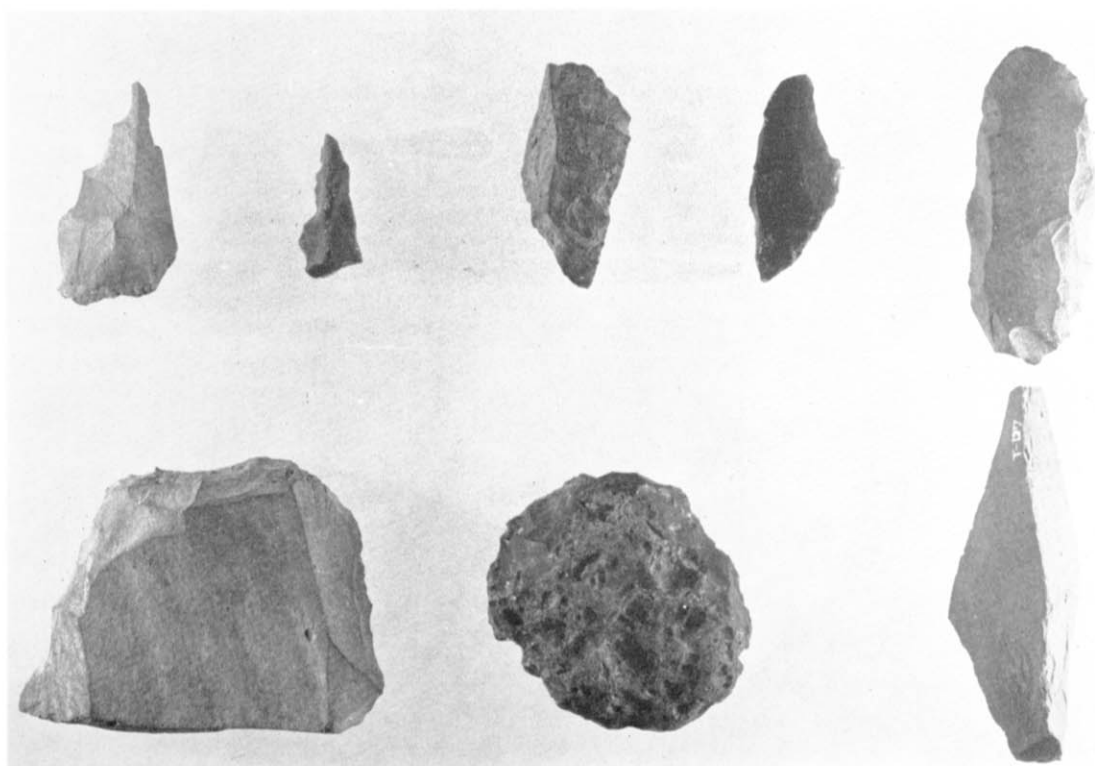


土
層
斷
面

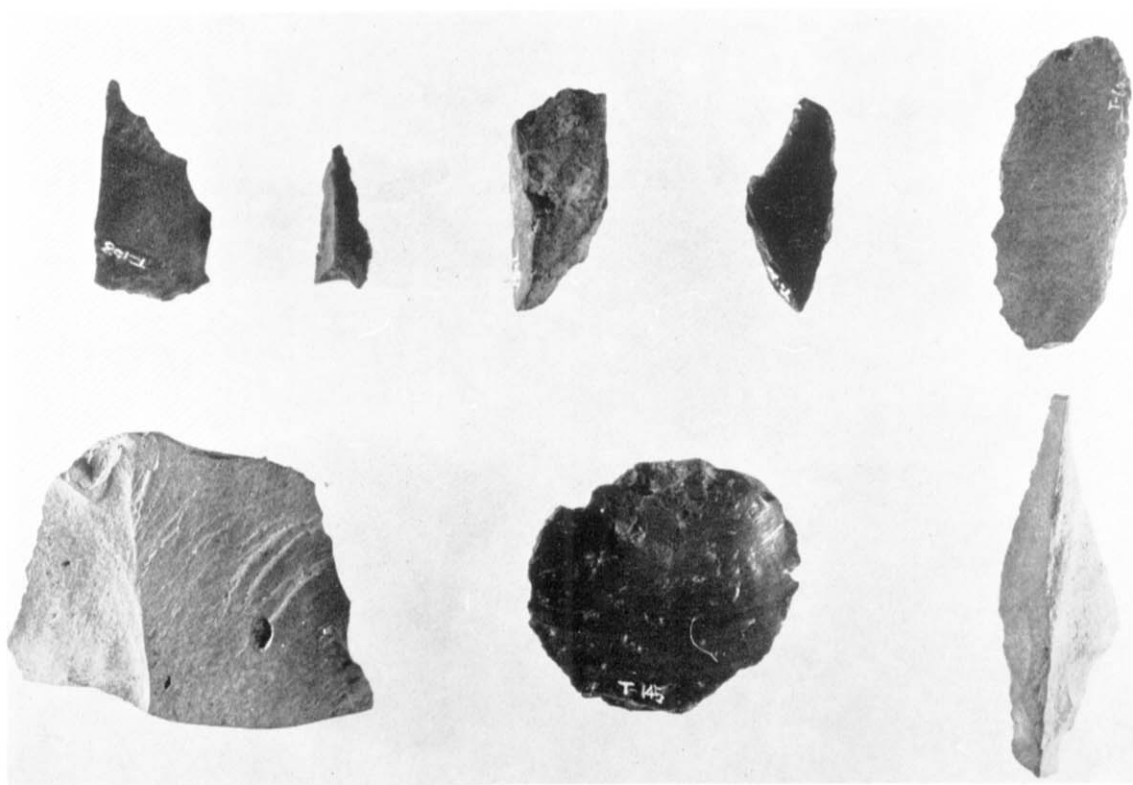




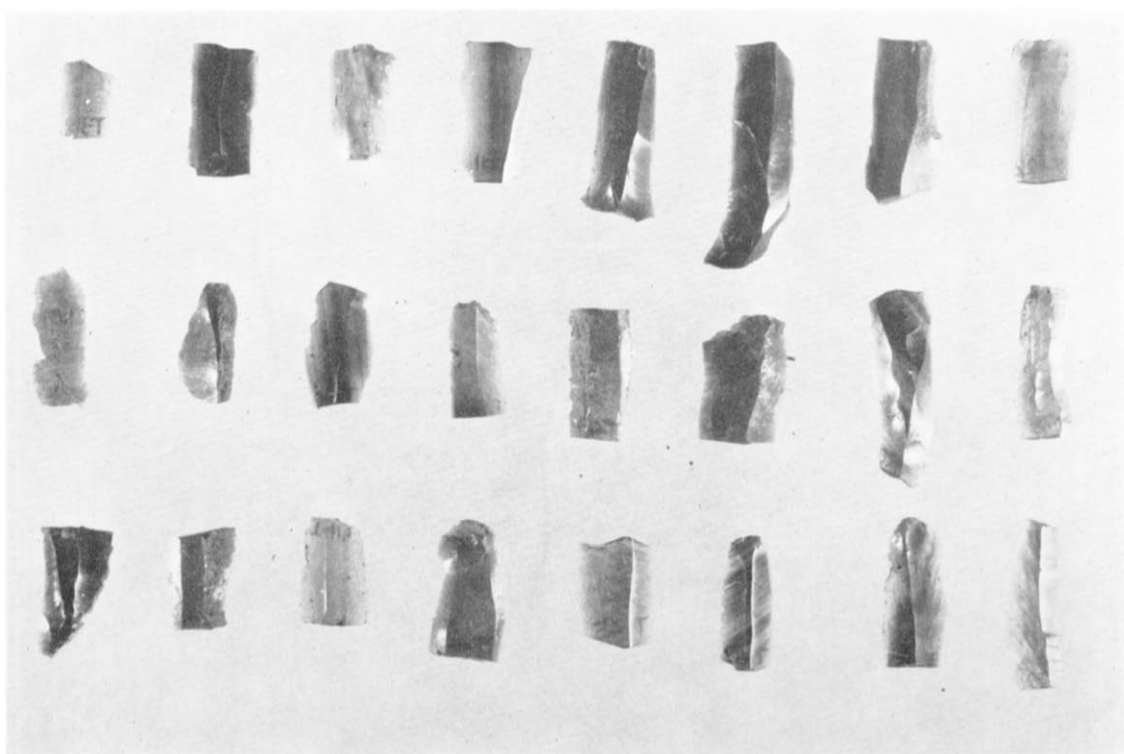
遺物出土狀態



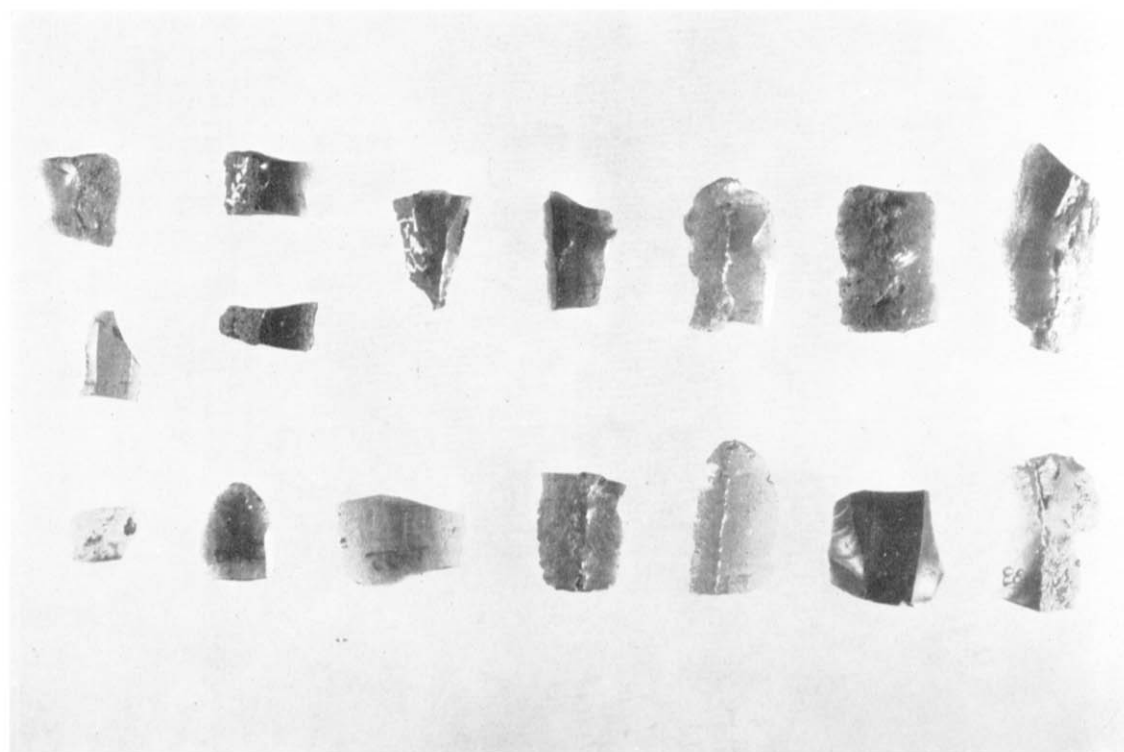
A 地点石器（ナイフ形石器・他）表



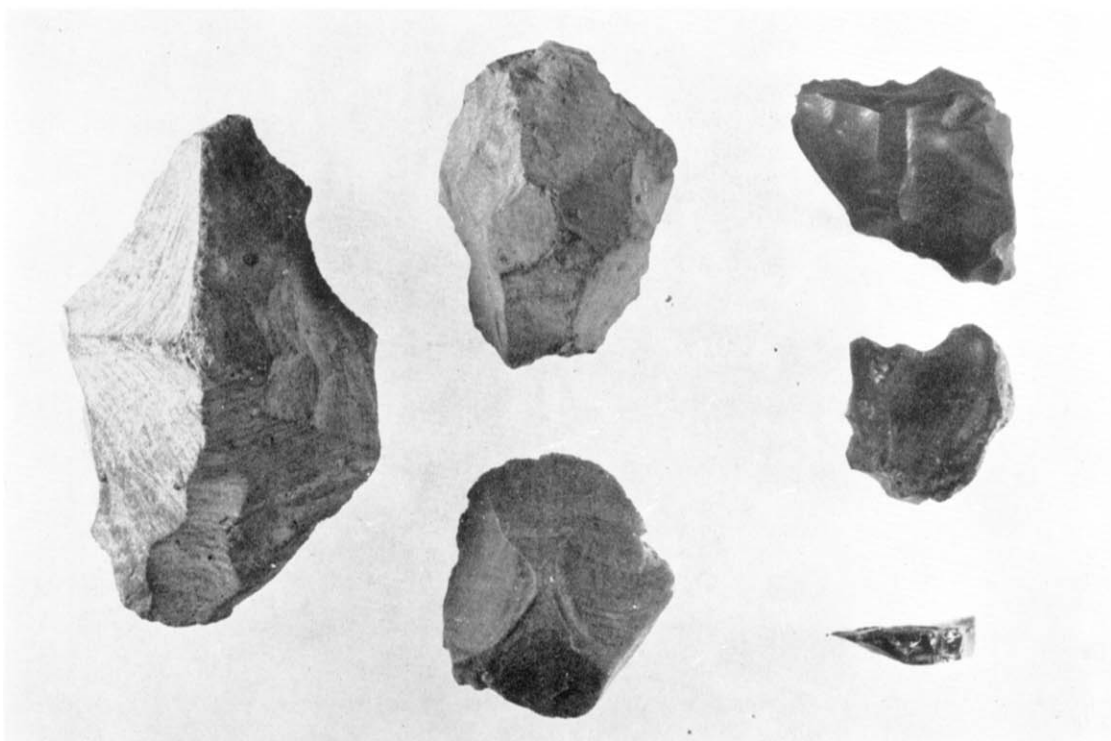
A 地点石器（ナイフ形石器・他）裏



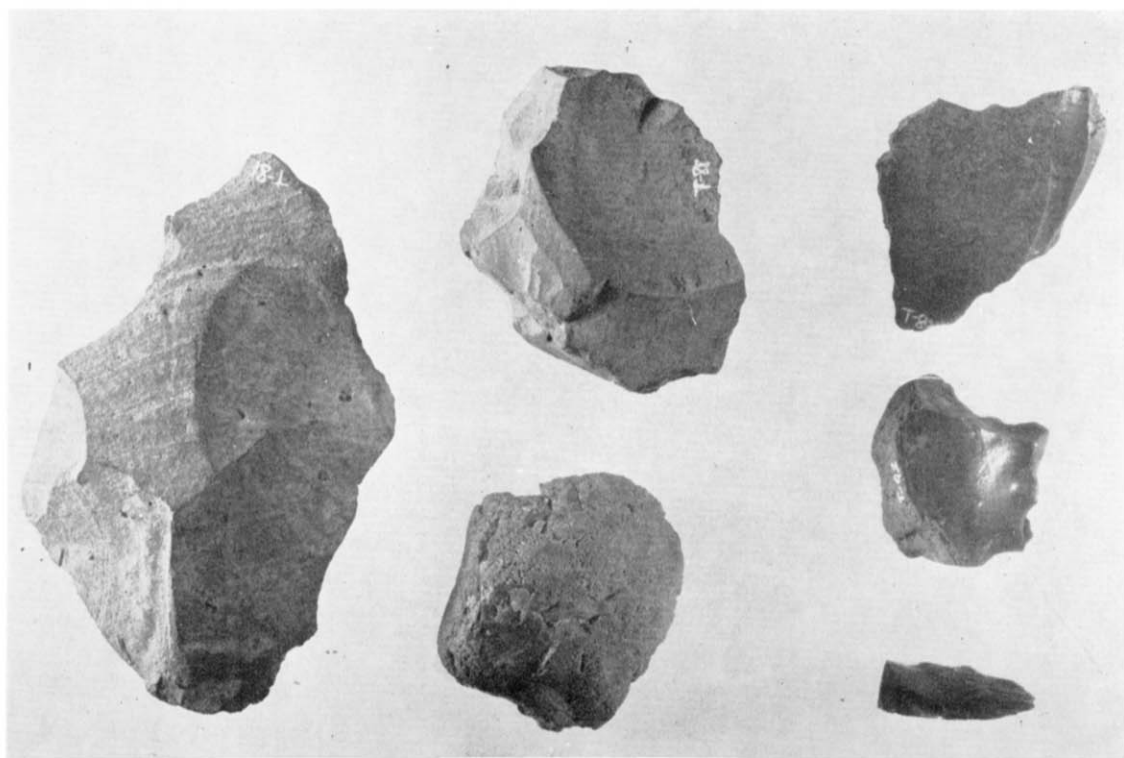
A 地点石器 (細石刃)



A 地点石器 (細石刃)



A 地点石器 (石核・細石核) 表



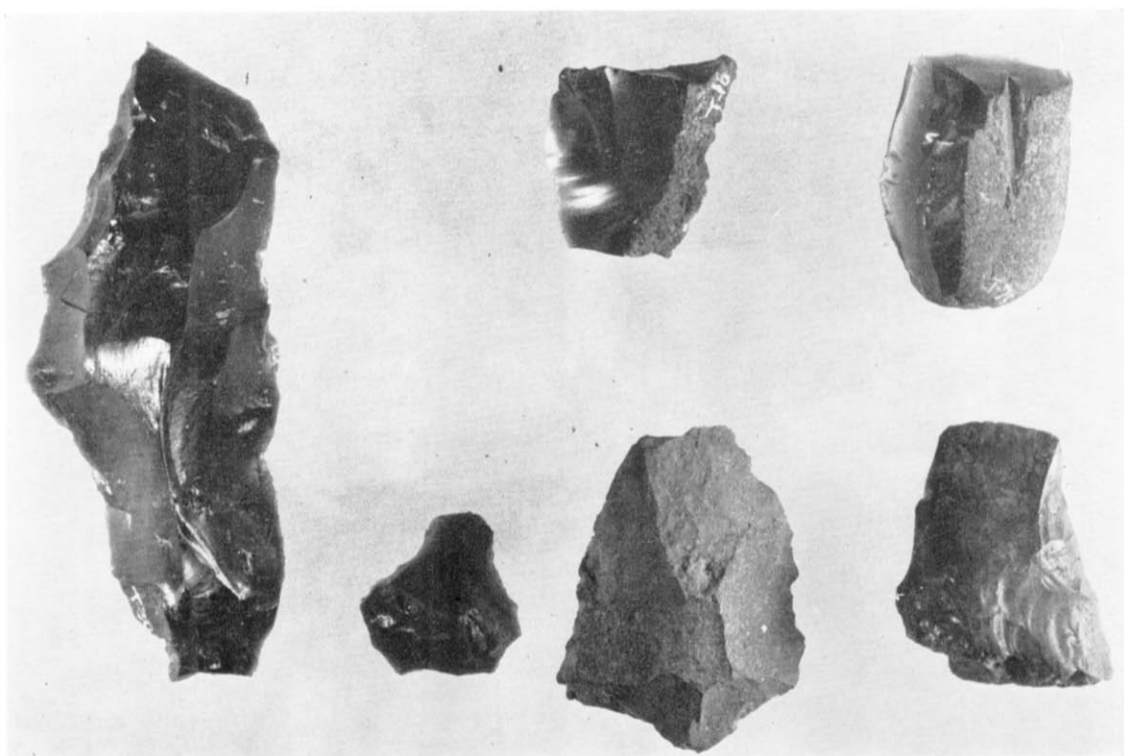
A 地点石器 (石核・細石核) 裏



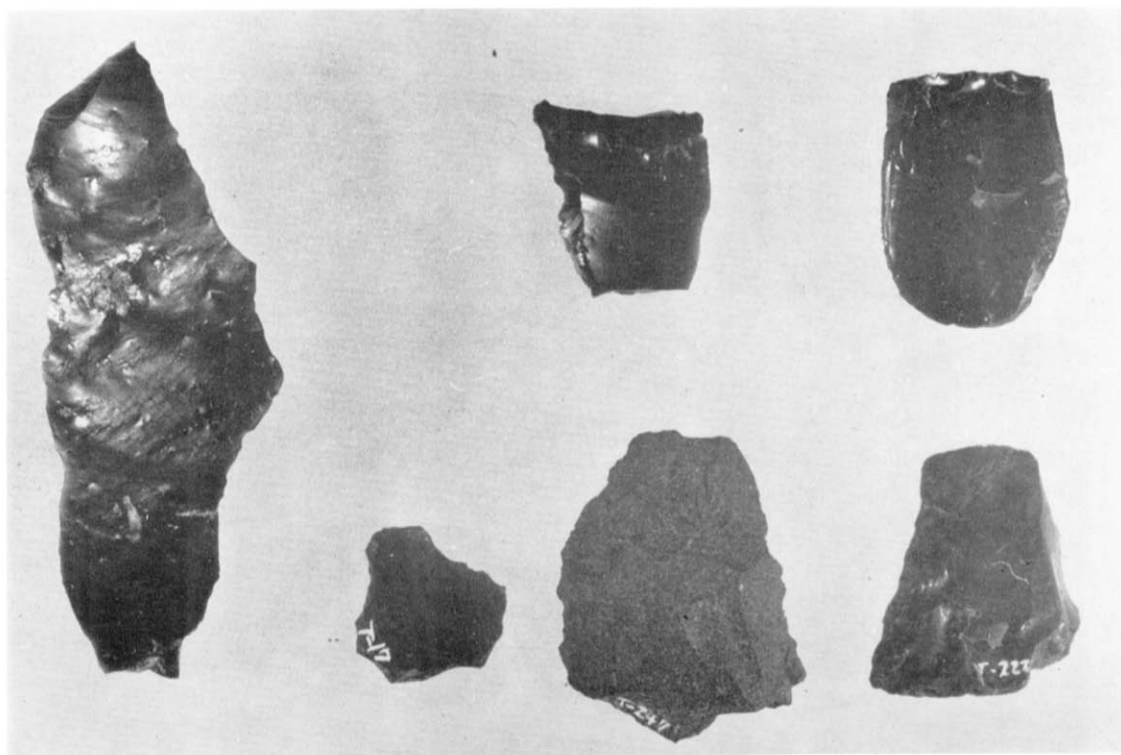
B 地点 石器 (台形様石器・他) 表



B 地点 石器 (台形様石器・他) 裏



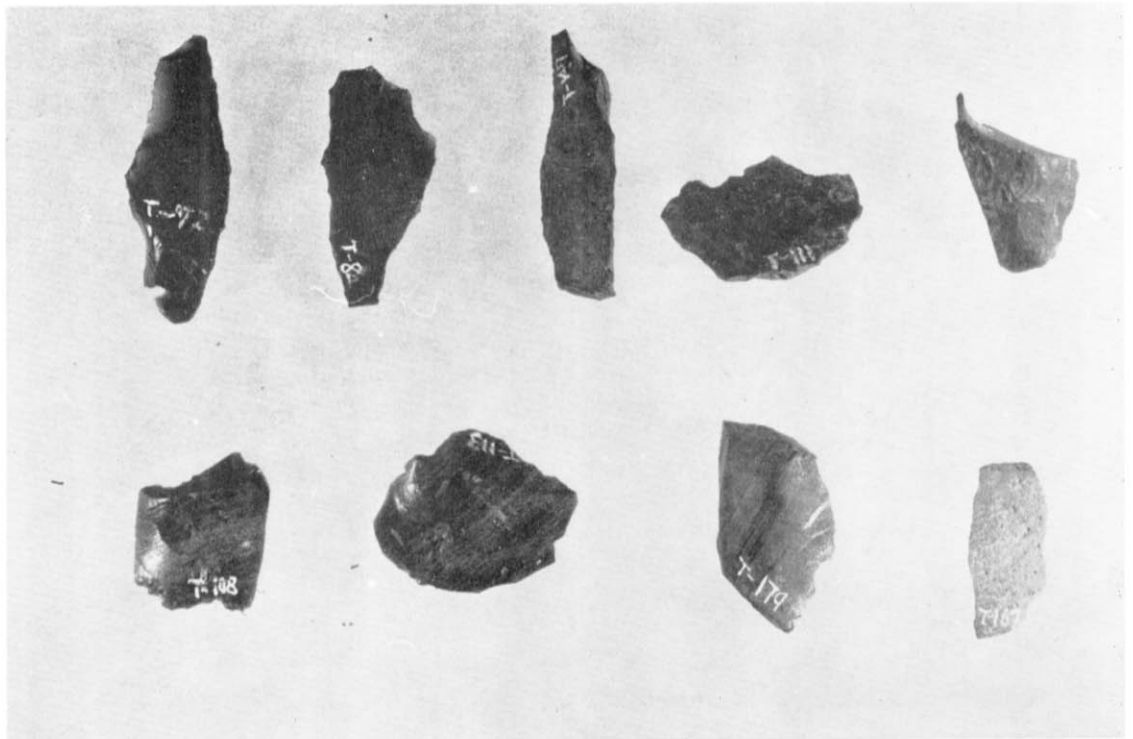
B 地点 石器 (細石核・他) 表



B 地点 石器 (細石核・他) 裏



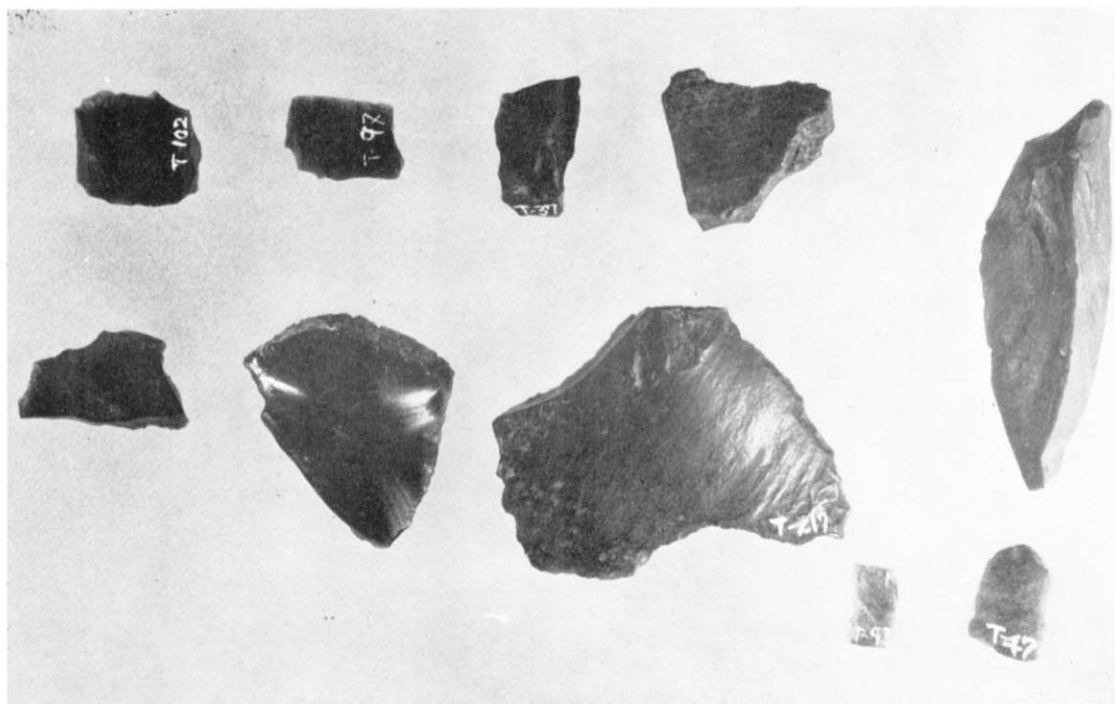
C 地点石器 (ナイフ形石器・他) 表



C 地点石器 (ナイフ形石器・他) 裏



D 地点 石器 (二次加工の石器・他) 表



D 地点 石器 (二次加工の石器・他) 裏

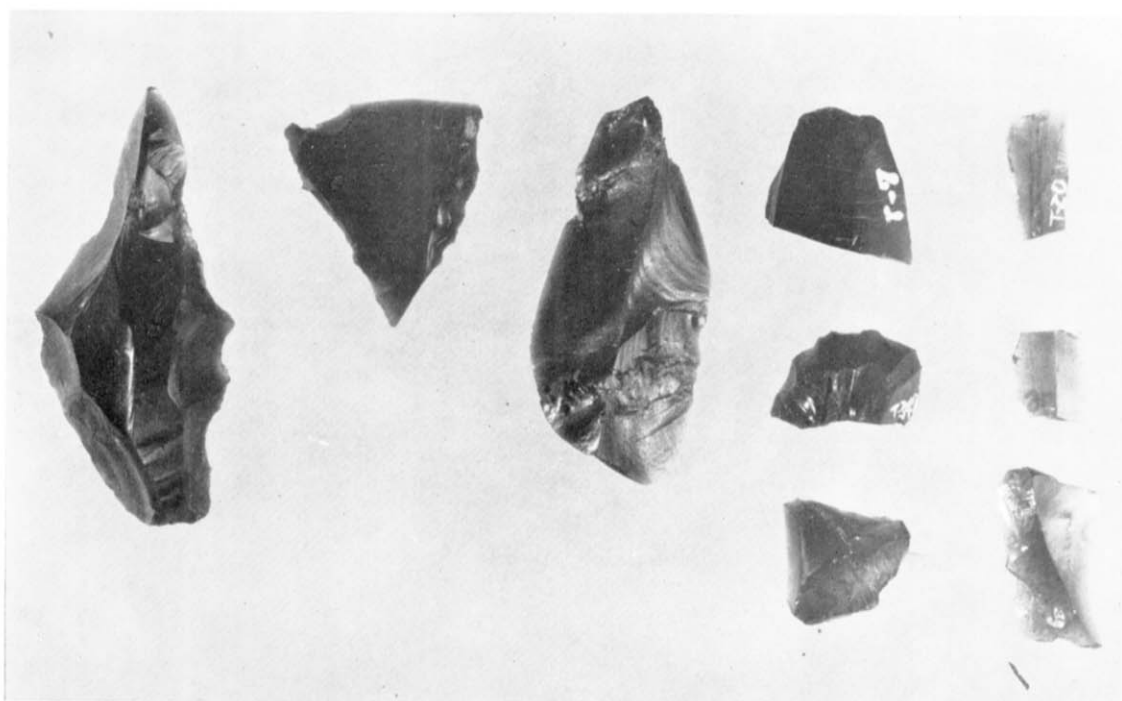


表 採 石 器 (尖頭器・台形様石器・他) 表



表 採 石 器 (尖頭器・台形様石器・他) 裏

福岡県文化財調査報告書 第50集

昭和48年3月31日

発行 福岡県教育委員会
福岡市中央区西中洲6街区29号

印刷 福博総合印刷株式会社
福岡市博多区堅粕3丁目16番36号